MJOT会報

中東欧地域における日本語教育の今と今後

国際交流基金ブダペスト事務所(JFBP)
日本語教育アドバイザー　齊藤眞美(ますみ)

2002 年 8 月の着任から、早いもので間もなく 2 年が経とうとしています。この間、ハンガリーをはじめクロアチア、スロヴァキア、スロヴェニア、セルビア・モンテネグロ、ブルガリア、ポーランド、ルーマニアを訪問し、授業を見学したり、関係者と面談をしたりする機会がありました。このうちクロアチア、ブルガリア、ルーマニアでは、弁論大会にも審査員や質問者として参加してきました。また、昨年 2003 年 7 月に JFBP にて初開催された「中東欧日本語教育研修会」では、上記クロアチアを除く 7 カ国にチェコを加えた 8 カ国の現地の先生方と、国際交流基金日本語教育専門家（チェコ、ブルガリア、ポーランド、ルーマニア、ハンガリー派遣）が会し、高等教育機関に関する情報交換のセッションも実現しました。これらの体験は、中東欧地域に於ける日本語教育の現状を知る上で大変貴重なものでした。

当然のことながら、各国、各機関で人材や設備、また日本語コースの位置づけや予算等、日本語教育を取り巻く環境は様々です。しかし一方で、1989 年以後、数々の変革を体験していること、時期は同一ではないものの EU 加盟が予定されていること等、大枠では共通点があります。日本語教育に関して言えば、教員が待遇的に恵まれず日本語教育だけで生計を立てることは困難であること、英語、ドイツ語、フランス語等 EU 諸言語が主要言語としての地位をさらに高めつつある中、日本語は残念ながらマイナー言語の一つと位置づけられていること等が、共通している状況です。しかしながら日本語教育の現場には、熱心に日本語を学ぶ学習者、精力的に指導にあたられている先生方がいらっしゃり、いつも大変頼もしく感じています。日本は中東欧地域からは地理的にも遠く、直接的な人的交流の機会も限られています。日本語が将来的に仕事に直結するようなケースもまだごく限られています。それでもなお、「なぜ」と思えるほど一生懸命に日本語を学ぶ学習者、そして様々な工夫をこらして授業に臨まれている先生方に接すると、中東欧地域の日本語教育環境であるからこそ、この地域の日本語教育関係者の方々は、なおさら貴重な存在であると常に強く感じます。

現在いくつかの高等教育機関の先生方が直面している問題の一つに、大学システムの改革があります。現行の 5 年の修士課程が、3 年の学士課程と 2 年の修士課程に変わろうとしています。ダブルメジャーの一つとして日本語を 3 年間勉強しただけでどのレベルまで到達できるのか、現場の先生方は頭を悩まされ、対応に苦慮されています。しかしながらこうしたシステムの変化は、当該地域の日本語教育にとっては逆に一つの好機とも考えられます。多くの機関では 90 年代以降、日本語教育が本格化しています。今ここで、過去を少し振り返り、将来を見据え、新たな体制作りをして新システムへ対応していくことは、マイナー言語ではあるけれども質的には高レベルにある日本語教育の実力を発揮できるチャンスと考えられないでしょうか。事実、そのための蓄積と潜在力は既に備えられていると思います。

MJOT は今年で設立 4 年目を迎えます。MJOT 設立時の目的の一つは、それぞれの所属機関を超え、また中等、高等といったレベルを超えての交流であったと聞いています。この点から、今後予測される変化に各機関が対応していく中で、MJOT の存在価値は、情報及び意見交換に基づく協力体制を可能とする点で、益々高まっていくことと思います。MJOT は、初代代表の後藤先生、その後 2 期代表を務められたセーカーチ先生の時期を通じ、創設期を既に終え、セミナー開催や会報発行等活動もすっかり定着してきました。そして現在のキッシュ代表の下では、法人化も機に、MJOT 全会員の力で体制がさらに強化され、「躍進期」へと向かっていくことでしょう。中東欧地域における第 1 号の教師会として、MJOT の活動は周辺国からも注目されています。今後のさらなる活動の充実を期待しております。

日本からの便り２

特別会員
Folinusz Ivett

２月に山口から友達が遊びにやって来ました。４月から彼女の仕事が始まるので、社会人になる前に、北海道や東京への旅行がてら、私の住む「つくば」へも寄ってくれました。せっかくの機会なので、ここで過ごす三日間をたっぷり使って、色々見せてあげようと思いました。 しかし、つくばの名所はいったいどこでしょうか。頭を抱えて悩み始めました。

茨城県にあるここつくばは完全なる学園都市です。市の真ん中を筑波大学が占め、その周りに研究所がたくさんあります。昔から続いていた農業はつくば市の郊外へ追いやられ、そこに大学や研究所が建ち、学園都市に取って代わってしまった所です。つくばの学園都市は 1960 年代の後半に作られたそうで、比較的新しいと言えます。ですから、つくばを訪れる際に、京都のような古くて立派なお寺などを期待しないほうが良いでしょう。しかし、何も無いとも言えません。つくばセンターから 20 キロぐらい離れた所に筑波山が聳えています。その中腹に素敵な神社があって、体力に自信がある人ならば、877 メートルの険しい山道を登る事も出来ますし、そうでなければ、ロープウェーやケーブルカーに乗って、景色を楽しむ事も出来ます。自然より科学が好きな人なら、プラネタリウムをはじめ、宇宙センターや日本で唯一の地学専門博物館やコンサートホールなどの施設も設けてあります。

大学生活：上述したように、つくばは学園都市ですから、日本人の中にも寮やアパートに住んでいる学生は少なくありません。ですから寮が非常に多いです。多くて、狭くて、汚いです。その事は私がつくばに来る前に言われていたので、十分に覚悟して来ましたが、やはりショックを受けました。８平方メートルの部屋に鉄のベッド、洗面所、鉄の机ときしむ椅子を見たとたん、泣きそうになりました。トイレは廊下でお風呂は別棟。しかも入浴時間は午後５時から１１時まで。始めの頃はかなり大変でした。お風呂に入るため、わざわざ時間を取り、準備する。好きな時間に入れなのは辛かったですが、慣れると、日本の広々として、熱いお湯がたっぷりの湯船に体を沈めるのは気持ちの良いものになりました。部屋の狭さにもだんだん慣れて、家具を買ったり、ポスターを貼ったり、まるでマイホームのようになってきました。そして、部屋が狭いので、掃除もあっという間に終ります。（笑）

交通・町並み： つくばセンターから東京までほぼ 10 分毎にバスが出ていて、渋滞がなければ１時間半位で東京駅に着くので、遊びやショッピングに便利です。また、隣にある土浦はバスで 20 分位、電車が止まるので、もちろん電車でも行けますし、駅デパもたくさんあって、買い物や遊びが楽しめます。つくば市内はバスしかないので、交通の便が良いとは言えませんが、チャリンコを使っている私達大学生には気になりません。交通の便が悪い所ですが、とにかく大学はとても広いので、雨の日や風の強い日は循環している無料キャンパスバスを利用します。町の真ん中を走る公園のおかげで自転車でも徒歩でも車の通りを避けて通う事ができ、主な大通り沿って並ぶ立派な並木は私をランニングに誘います。一言で言えば、多くの公園と並木、巨大なキャンパスがある「つくば」は勉強やスポーツに専念でき、学生には最適な町です。

編集部より：イヴェットさん、ありがとうございました。会員皆さんからの「お便り」をお待ちしています。

はじめまして、どうぞよろしく！

年を改め、2004 年になってから入会された会員の方2名をご紹介いたします。ザグレブ在住のHillさんにはクロアチアの日本語教育に関する情報も併せてお願いしました。今後も教師間の情報交換を活発に行い、より良い日本語教育のために協力し合えたらいいですね。

Oresta ZABURANNA さん

ウクライナの西にあるリヴィヴ市のイヴァンフランコ大学文学部を卒業しました。学生時代から、日本語を勉強して、国際交流基金日本語国際センターで研修させていただき、2001年から母校で、2003年から同市の工科大学でも日本語を教えています。昨年、言語学博士号を取りました。日本語では文型と、また日本語に見られる相対性仮説に興味があります。

十年前、ウクライナが独立してから日本語が勉強できるようになりました。国には立派な先生がいらっしゃるのですが、日本語の教育はまだ広く普及していない状態で、ハンガリー日本語教師会のような経験豊かな先生方がいらっしゃる会に参加させて頂き、皆さんとお知り合いになれる事、交流できる事を嬉しく思っております。どうぞ宜しくお願いします。　(e-mail:orestaz@yahoo.com)

HILL ゆかり さん

はじめまして。今年一月にあった東欧日本語巡回セミナーでブダペストに来たのがきっかけで、新しくハンガリー日本語教師会特別会員になりましたヒルゆかりと申します。

自分でも驚いてしまうのですが、10年も前に初めて日本語教育と関わり、日本、セルビア、そしてここクロアチアでは2001年の10月より、ザグレブ大学哲学部で日本語を教えています。はじめは、ザグレブ大学には日本語教育がなく、教室を確保するのも大変でしたが、今年になってようやく『日本研究科』立ち上げの可能性も出て来たところです。

クロアチアの日本語教育の現状ですが、私が知っている限りでは全てが初級レベルで、高校と語学学校での教育が主となります。ザグレブでの教育機関は、選択科目として認められた日本語の授業をしているのは、二つの高校。『Japanese for Young People』を使って、日本人の女性が教えています。また、現在、3つの語学学校で他の日本人女性が日本語を教えていますが、学習者は10歳ぐらいの子供から成人まで年令は幅広く、最初の40～50時間は基本的な導入、それに引き続いて『日本語初歩』とオリジナルの教科書を使った授業が行われています。

気になる「動機」ですが、語学学校では「何となく日本語が好き」、「親にすすめられて」という子供達もいれば、はっきりとした動機無しに永年勉強し続けている年配の方もいます。高校生、大学生になると「ヨーロッパ以外の言語を知りたい」「武術に興味がある」というもう少しはっきりした動機もでてきますが、何よりも目立ってきているがやはり、「日本のアニメに興味がある」になるようです。「自分の国と全然違うから」という理由で始める学生は概してドロップしてしまうことが多いのはどこの国も同じでしょうか？日本人の数が非常に少ないクロアチアで、生の日本語に日常接することはとても難しく、多くの学生が日本のアニメをダウンロードしては「少しわかった!」と喜んでいるのを見ると、思わず「かわいいなあ……。」と感じてしまいます。また、オリンパスなどの日本企業も数社、クロアチアにありますが、日本人駐在員がいるほどの規模ではなく、就職目的で日本語を勉強する動機付けにはまだいたらない様です。　(4 頁に続く)

3月下旬に行われた「第4回日本語発表会/スピーチコンテスト」では、このような学習者が31人出場し、今回始めての試みとなったブダペストからのゲスト審査委員（JFの齊藤さん、MJOTの後藤さん）の前で自分達なりに（低レベルではありますが）日頃の勉強の成果を披露しました。今回の参加者からのメッセージは「今後も日本語を大学で学びたい」というのがいくつかあり、私としてもその必要性を強く感じる場となりました。クロアチアに「日本研究科」がない現状では、せっかくの“ヤル気満々”の学生達も大学入学と同時に他の専門科目を選ぶほかになく、当然、その勉強におわれ日本語を断念せざるをえなくなります。

日本語をより多くの人に広めて、大学での「日本研究科」立ち上げを実現させる、これが、今のクロアチアの目前の課題です。この教師会のネットワークを利用し、他国との交流を是非深めたいと思います。

（e-mail:yukarihill@yahoo.co.jp）

＊会員の皆さんへ：上記お二人のお名前とメールアドレスをお手元の会員名簿「特別会員」欄に追記願います。

雑感、Kicsi a világ !（It's a small world, isn't it？）

後藤　史与

本当に「世間は狭い」もの。クロアチアの首都ザグレブの大学で日本語教育が行われている事さえ知らずにおりました所、昨年の暮れ、ひょんなことからそこで日本語を教えていらっしゃる方が旧知の間柄である事が分かりました。始めに第三者を介してお名前を頂いた時はすぐには思い出せず、失礼をしてしまいましたが、その後ご本人から直接メールを頂き、10年前の思い出の一こまを例に挙げて下さったおかげで、古い一枚の写真を取り出したかのようにその時の情景を鮮明に思い出しました。

特急電車で僅か6時間の場所にザグレブがあります。Hillさんとの十年ぶりの再会、思い出話にも花が咲きましたが、日本語教師が二人寄れば話題はおのずとそれぞれの国での日本語教育となります。教育現場の日々の問題、教育環境の問題はハンガリーや周辺諸国でも似たり寄ったりの所ですが、ブダペストと大きく違う点は在留邦人がそこには数えるほどしかいないことです。今年で4回目を迎える「日本語発表会/日本語スピーチコンテスト」でもこれまで出場者の確保はそれほど問題無く来たものの、審査員の確保が難しく、前回まではやむを得ない情況故に一日本語教師が自分の教え子と他所で学ぶ学習者を審査していたと言います。これは審査員がどんなに公平に審査を務めても、参加者には審査の不公平感を与えてしまいます。ハンガリーのスピコンでも公平なる審査のために審査員を決めるのは大変な事ですが、十分にある駒の適正配置に悩む余裕があります。悩めるスピコン担当者が旧知の人となれば、何かお手伝いを…ということで、今回審査員として出席して来ました。当初より自費参加を決めておりましたが、Hillさんが上司と交渉してくださり、主催者であるザグレブ大学が経費を負担してくださいました。この紙面を借りてHillさんとザグレブ大学に深く感謝申し上げます。

さて、3月25日午後5時、ザグレブ大学において始まった「第四回日本語発表会/日本語スピーチコンテスト」は前半パフォーマンスの部に10歳の小学生から23歳の社会人まで19名が出場。在クロアチア日本大使館池田大使より、ホテルにおける日本語会話を披露した日本語学校で学ぶ二名に『日本大使賞』を、可愛い振り付けで大きなカブを披露した小学生に『健闘賞』が贈られました。18:30から、いよいよ日本語スピーチコンテストが始まり、16歳の高校生から34歳の社会人まで12名が出場しました。ハンガリーの出場者と同じく、皆緊張している様子が窺われましたが、表情豊かに表現している事、伸び伸び発表している事に感動しました。そして日本語教育の歴史が浅く、まだ小規模である事の良い点が狭い講堂いっぱいに満ちあふれていました。

とかく毎日の授業に追われ、教えることを楽しむゆとりすら失っていた私に、ザグレブでの1日は色々な事を思い起こさせ、そしてじっくり考える時間を与えてくれました。「世間は狭い」故に十年ぶりに再会できた旧知の友にもこの機会を与えてくださった事に感謝しています。

初級日本語・ハンガリー語語彙集第２版発行について

相馬　笙子

昨 2003 年に発行された初級日本語・ハンガリー語語彙集第 1 版は予想外の売れ行きで、11 月には 1 冊を残して完売となりました。このことから、高校卒業試験受験者のみならず、広く初級学習者に利用されていることがわかります。その後も注文が続き、第 2 版として増刷することになりました。

第 2 版編集方針

編集にあたっては、時間的余裕がないこともあり、見直しのみにとどめることにしました。見直しにはセーカーチ・アンナさんと相馬が当たり、日本から帰国したニコレーニ・ゲルゲイ君が手伝ってくれました。

作業の過程

作業の段階で気が付いたことは、第 1 版ではトータルに検討することが不十分だったことです。第 1 版では初めに編集委員が一堂に会して検討会を持ちました。表記や解釈の統一をはかるためにこの方法は効果的でありました。しかし、常に一緒に集まることは不可能であったため、分担して作業を行うという過程もありました。今回は縦方向、横方向と徹底的に見直しました。語彙の数は同じですが、結果的に 5 ページ増えることになりました。時間がいくらあっても足りないという思いを抱きました。お気づきのことがありましたら、ご意見をお寄せください。

印刷の過程

今回は第１版の時と違い原稿を CD に入れる作業が増えました。印刷はソルノクにある印刷所に頼みました。原稿ができ CD ができるまでと CD を印刷所に出す段階で、雪による悪天候に見舞われ、3 週間ほど予定が遅れてしまい、やきもきしました。完成は３月にずれ込んでしまいました。

編集協力者へのお礼

これまでに協力してくださった方々に、第 2 版を贈呈することでお礼をすることにしました。会員の皆さん、どうぞご了承ください。ちなみに印刷所は 1 冊も余分にくれませんでした。

販売について

先日メーリングリストでお知らせしたとおり、取扱者は後藤さんと相馬です。未知の方からの問い合わせには電話のみとし、メールアドレスおよび携帯電話番号の公開は避けていただきたいと思います。

2002 年冬、2003 年冬、そして雪。この時間は私の中では語彙集と共にあります。

『初級日本語・ハンガリー語　語彙集』（950Ft.）
注文先　相馬:06－1－326－0898
後藤:06－1－342－0034

２００４年ＭＪＯＴセミナーの予定

4月30日(金)17:00～
国際交流基金Bp.事務所
セミナー室

「日本語表記体系の中の二次的な問題」

マーテー ゾルターン氏

5月28日(金)17:00～
国際交流基金Bp.事務所
セミナー室

「ブダペスト商科大学:ビジネス日本語講座の取り組み」

鈴木 愛 氏

MJOT 会員の発表や報告などを常時受け付けています。
運営委員の後藤までお申し出下さい。
(e-mail:fumi0627@hotmail.com)

スピコン実行委員会より！

実行委員：Kiss Sándorné
吉瀬　友佳子

２月下旬にスピーチコンテスト実行委員会のメンバーで打ち合わせが行われました。その場で次回（第12回）のコンテストに向けて、以下のことが話し合われました。

１）開催時期：秋休み後から11月上旬のいずれかの土曜日。
　開催場所：未定（大使館または他の場所）
２）パフォーマンス部門が好評だったので、今後も引き続き行う。
３）教師会準会員からも一名、実行委員会に準備段階から参加し、手伝ってもらう。（カーロリ大の Medve Anikó さんに依頼、承諾済み）
４）審査員の日本語教師の割合を次回から多めにする可能性もあるので、更に多くの先生方の協力をお願いしたい。

今後、スピーチコンテスト開催まで、数回の実行委員会を開き、夏休み前までには各教育機関に応募要綱などをお届けする予定です。

･･･日本語教育教材の情報･･･

「J BRIDGE」　(ﾃｷｽﾄ＋CD)
凡人社

・初級修了者対象
・トピック・シラバス採用
　１）紹介する　　２）旅行する
　３）異文化に触れる
　４）未来　　５）ミステリー
　６）ベスト・パートナー
　７）食と健康　　８）教育
　以上の８課で構成されている

MJOT 所蔵の本：基金 Bp.事務所齊藤さんが会員への貸し出し管理をして下さっています。興味のある方は基金 Bp.事務所へ！

第９回ヨーロッパ日本語教育ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
2004年８月26日～28日　仏：リヨン市
詳細はﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：　http://www.e-aje.org

発行者：ハンガリー日本語教師会　**MJOT**
「会報　第11号」
２００４年４月２１日
編集者：Székács Anna　Goto Fumiyo